

---

---

## 発刊の辞

---

---

知が権威と結び付いて特權的な地位を占めていた時代は過去のものとなり、大学という場を基盤とした研究・教育の意義が改めて問い直されるようになりました。

同様に学問の新たなありようが模索されていた時代に、新制大学として再編され発足した横浜市立大学において、自らの自由意志によって加入し自ら会費を負担することで自律的な学術研究の基盤を確立しようという志のもと、教員も学生も共に知のコミュニティを共有する同志として集うという、現在でも極めて稀な学術団体として横浜市立大学学術研究会は発足し活動してきました。

上記のような時代背景を受け、ここに新たに、横浜市に本拠を持つ出版社である春風社の協力のもとに、実証可能性を持つ根拠に基づいたという意味での学術的な言論活動の基盤として、三つのシリーズから構成される横浜市立大学新叢書の刊行に乗り出すに至りました。

シリーズ構成の背後にある、本会が考える知の基盤とは以下のようなものです。

巷にあふれる単純化された感情的な議論によって社会が振り回されないためには、職業的な専門領域に留まらず、社会を担う当事者としての市民として身に付けておくべき知の体系があり、それは現在も日々問い直され更新されています。横浜市立大学ではそのような、自由な市民の必須の資質としての「リベラル・アーツ」を次の世代に伝達する「共通教養」と呼んでいます。それに対応する系統のシリーズが、本叢書の一つ目の柱です。

そのような新時代の社会に対応するための知は、より具体的な個別の問題に関する専門的な研究という基盤なくしてはあり得ません。本学では「リベラル・アーツ」と専門的な教育・研究を対立項ではなく、相互補完的なものとして捉え直し、それを「専門教養」と呼んでいます。それに対応するために二つ目の系統のシリーズを設けています。

三つ目の柱は、研究と教育という二つの課題に日々向き合っている本会会員にとって、最先端の学問を次の世代に伝えるためには動きの遅い市販の教科書では使いづらかったり物足りなかつたりする問題に対応するための、本学独自の教育を踏まえたテキスト群です。もちろんこのことは、他学においてこのテキストのシリーズを採用することを拒むものではありません。

まだまだ第一歩を踏み出したに過ぎない新叢書ではありますが、今後も地道な研究活動を通じて、学問という営みの力を市民社会に対して広く問い、市民社会の一員として当事者意識を持ちながらその健全な発展に参加して行く所存です。

---

---

学術研究会運営委員会